
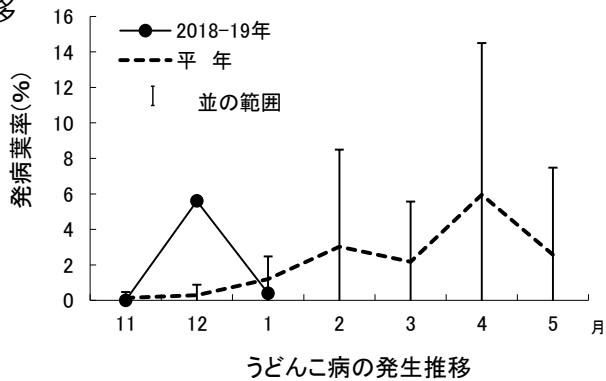


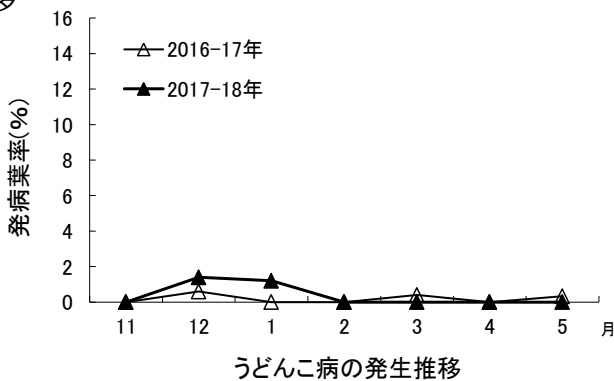
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
1月の発生量（現況）	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の推移




過去2年間の推移



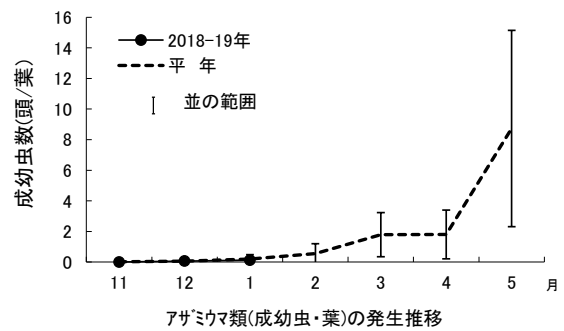
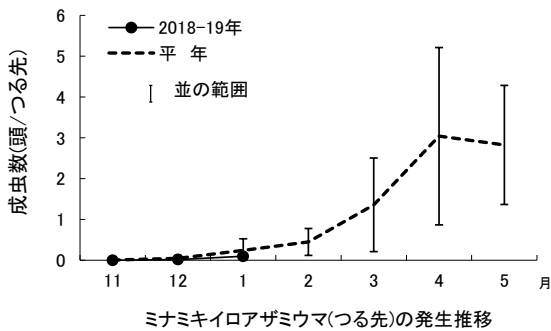
防除のポイント

- ・ 発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 除去した葉はほ場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・ 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

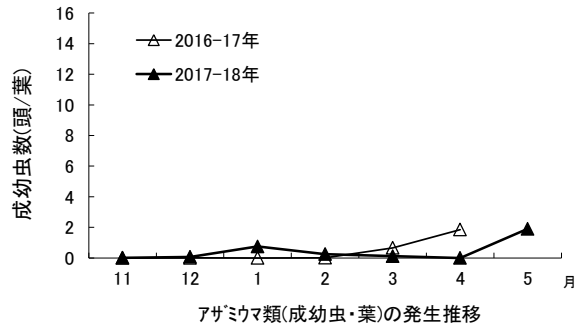
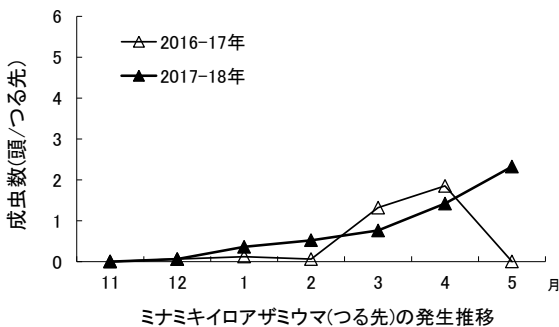
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
1月の発生量(現況)	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	つる先の成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えらえる。		

発生量の根拠(調査結果)

今年と平年の発生推移




過去2年間の発生推移



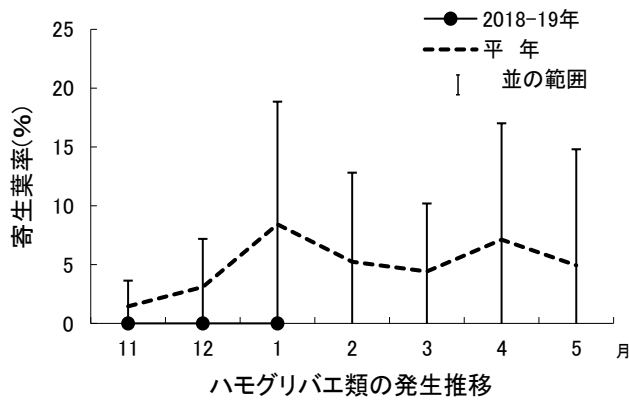
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

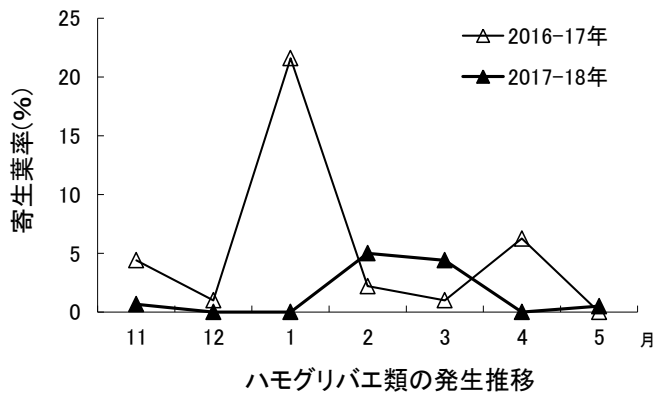
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
1月の発生量（現況）	(発生なし)並		
2月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の推移



過去2年間の推移


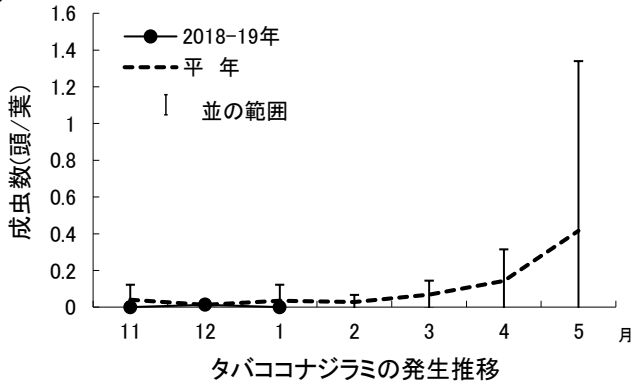
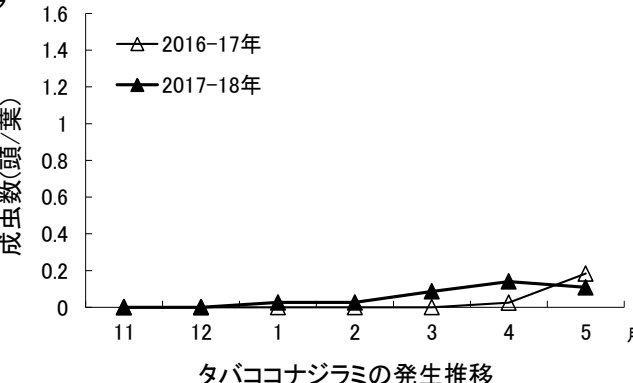



防除のポイント

- ・施設内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・幼虫期間が比較的に短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。
- ・老葉や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。

幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

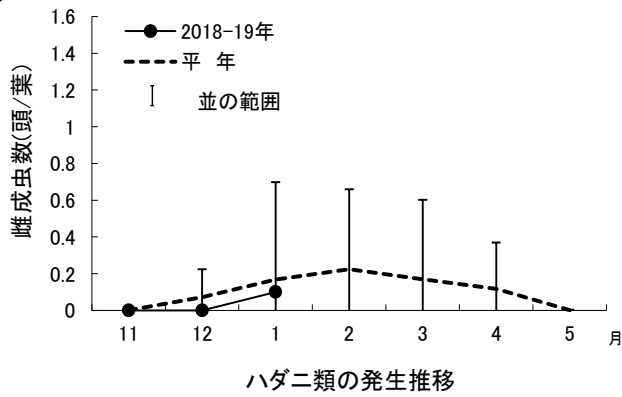


作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
1月の発生量（現況）	(発生なし)並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		
発生量の根拠（調査結果）			
<p>今年と平年の推移</p>  <p>過去2年間の推移</p> 			
<p>防除のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。 ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。 ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。 			

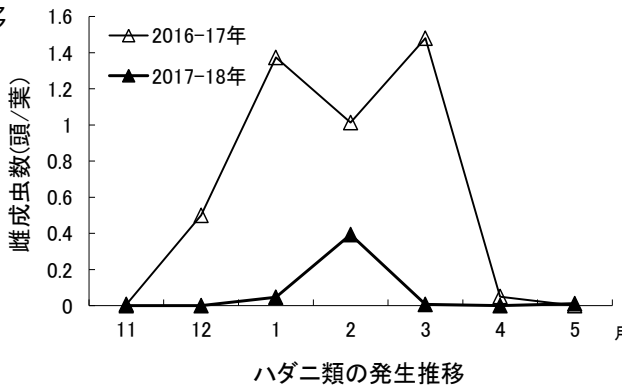
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
1月の発生量（現況）	並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えらる。		

発生量の根拠（調査結果）

今年と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・ 気門封鎖型薬剤の散布を主体とした防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。